

そっ たく

# 啐啄

平成29年1月1日刊行 No.12

編集・発行 大島町教育委員会

教育文化課事務局

Tel.04992-2-1453

題字「井島 吉春」

## 『家庭学習のすすめについて』

教育長 谷口 淨

あけましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

大島町教育委員会では小学6年生、中学3年生を対象とした全国学力・学習状況調査の結果を受けて、平成27年7月に「大島町学力向上推進委員会」の立ち上げを行い、5分科会を設け、それぞれのテーマ毎に活動することになりました。平成28年度以降はそれらを実践しながら調査や研究発表を通して改善を図り、また教員一人一人の「授業力」の向上にも取り組んでおります。

さて、私の経験ですが、小中高を含めて家庭で勉強した！学習した！という記憶があまりなく、一生懸命勉強したのは大島を出てからで、いまこの歳になって「小・中学生時代」にもっと勉強しておけば基礎学力が身につけていたのにな！と反省するばかりで、気が付いた時には「時すでに・・・」。こども達には大人になってから後悔しないよう家庭での学習の大切さをわかってほしい。また、家族の協力についても是非お願いいたします。

そこで家庭学習についてですが「家に帰っても勉強する習慣をつけたいので、宿題を出してほしい」「家庭では家族の団欒や手伝いのほうが大事なのでこれを含めて広い意味の学習をさせたい」「低学年の内は遊びのほうが大事」など各家庭でいくつか違った考え方があるのが実態です。

小6、中3を対象とした全国学力・学習状況調査の過去の結果から、学力と学習、生活環境は大いに関連性があり、「学力は家庭学習で向上する」ことがわかってきました。小中学校の学習は、将来児童が社会人として自立するための基礎となる大切なものです。学校で児童・生徒の学力向上に取り組んでいくと同時に、学校と家庭が連携することで、学習内容がより確かに定着し、伸びていくと考えます。また、家庭学習は学校で学習したことをしっかりと身につけるためのものや、自分の興味、関心のあることについて、自ら学ぶ習慣を身につけるためにとっても大切なものであり、1日の生活の中に家庭学習の時間を確保するというのも基本的な生活習慣の一つです。

## 『家庭学習の意義・教育的効果』

### ① 学習内容の定着

学校で学習したことを家庭で復習することにより、習熟・定着を図ることができます。特に漢字や計算などは、毎日繰返し練習することによって定着していきます。学校で「わかった」ことが、反復練習によって「できる」という自信に変わります。

### ② 脳の活性化

読み・書き・計算を毎日繰返すことは、脳の活性化につながると言われています。脳も手足の筋肉と同じように、毎日繰返し使うことで活発に働くようになります。鍛えれば鍛えるほど発達し、たくましくなって、脳がいろいろなことにうまく使えるようになります。小中学生のうちからどんどん脳を鍛えましょう。

### ③ 学ぶ習慣をつける

毎日家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身につきます。毎日続けることで、やがて当たり前前の習慣になります。少しずつでも継続することが大きな力につながります。低学年のうちから毎日欠かさず家庭学習をすることが大切です。

### ④ がまん強さ、根気、集中力をつける

家庭学習の最大の敵はテレビやゲームなどの誘惑です。この誘惑に打ち勝つことにより、がまん強さ、根気、集中力を養うことができます。テレビやゲームの時間を決めて学習や読書等の時間をしっかり確保する。そのためには、テレビを消す、みんなで読書をするといったことなど家族全員の協力も必要です。

### ⑤ 家族のふれあい

「本を読んでいる時、横で開いてあげる」、「勉強が分らない時、教えたり調べたりしてあげる」など家庭学習をしている子どもに親が関わることによりコミュニケーションが図れます。家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神的な安定につながり、心身も頭脳も健やかに育ちます。

◎子どものやる気を引き出すような働きかけをお願いします。

## 『大島に生きる』

教育長職務代理 山田三正

昨年の11月21日大島町総合防災訓練があり、23日には第二中学校の研究発表会がありました。防災訓練は1986年の伊豆大島火山噴火による全島避難から30年経過し、今後の三原山の活動にさらなる注意が必要とされており、これからの噴火に対する都と町の対応と私たちがどのように行動するかなどの確認の意味があったと思います。「その時」にどう備えどう行動するかなど、この大島で生活している私たちは様々な自然災害にも備えることが大切です。備えることの一つに、経験と研究・知識から災害を科学的に知ることがあります。

二中の研究発表会では大島を課題とした色々なテーマの中で、「大島の災害と環境問題」「住みたくなる大島〜」など色々な観点から調査研究し、生徒の意見が述べられていました。離島である大島で生きていくことは、食料、産業、エネルギー、自然環境と正に日本に生きることです。大島に住み続ける、住みたくなる大島を創ることは大島の、日本の未来を考えることと同じであり大切なことです。

11月9～11日に伊豆大島ジオパークの再認定審査が行われました。「ジオパーク(GeoPark)」には、自分たちの地域のことはもちろん、すべての源である「地球(ジオ)」や、「地球と私たちの暮らし」とのつながりを「楽しみながらよく知ろう!」という想いもこめられています。自分たちが暮らす大地(ジオ)、つまりこの大島の成り立ちや特徴をよく知り、その地域(大島)だからこそ育まれた景観や動植物、人々の暮らし(歴史・伝統文化・風習・食・祭事・地場産業・地産品など…)を自分たちの大切な宝物として守りながら、教育・防災・産業振興などの取り組みに上手に活用している地域(パーク)のことをいいます。

大島で生きてきた人々や動植物は、度重なる噴火や災害などの過酷な環境に適応し、克服する強靱な心身と豊かな知恵を持ち、自然の恵みを活用しながら、島特有の生態・歴史・文化・生活をつむいできました。この大島の未来を創るのは今の児童・生徒たちにかかっています。大島を大切な宝物として、郷土大島を愛し、大島での生活から学ぶことは、大島の価値を認識することから始まります。それが自分の未来を創造することにつながります。ジオパーク活動はこの大島の価値を認識することでもあります。価値を知り、新しい価値を見出し、生み出し未来を生きる人を育てる大島でありたいと思います。

(再認定の結果は12月上旬に発表されます)

## 『半人前』

教育委員 井島 吉春

あとすこしすると各学校では卒業式を迎え新たな旅立ちの季節となる。大島では高校卒業まで島でがんばる子が圧倒的に多いが、中には小学校から、或いは中、高、大などから島外へ進学するものもいる。

今の子ども達はどの時点から将来の仕事を意識し、進学するのだろうか。自分のことを振り返ってみると40年前ぱっとしない中学生だったのでとてもはずかしく思い出したくない時代なのだが、それでも中学3年の時に自分の進む道を決めた。先代住職（祖父）が他界したので孫の私にお鉢が回ってきたのだ。特に抵抗もなく出家を受け入れた。仏教系の高校、大学、大本山での修行とこの先10年間の予定を組み25歳で島に帰ってくるというルールを敷き、そしてそれに乗った。

中学までの勉強は当時の先生方には申し訳ないが、何しろおもしろくなくどの教科も大嫌いだった。先生達はこれでは危ないと思ったのか受験対策の補習をしてくれた。今考えれば有難い話だが本人にとっては迷惑なことで、いやでいやで仕方がなく中学時代は良い思い出が全くない。

高校に入ってからいろんな先生に出会ったが英語の先生でおもしろい先生がいて「自分は、避けて通れる道は避けて通ればよいという考えの人間だ。」という、何ともゆるい様な、突き放す様な形容しがたい先生だった。しかしこの先生のおかげで大学受験も乗り切った。「君は将来、英語で食べていくのではないので大学に入る為の点を取ればよい。」説得力のある言葉だった。詳細は長くなるので書かないが、要は unnecessary な勉強はせず、受験だけに的を絞ったのだ。しかも今から勉強しても点が伸びないような所は捨てようとの作戦。この紙面にふさわしくない内容にも思えるが事実なので仕方がない。他教科も全てこの先生の考え方を応用し、何とかなった。

大学では一般教養、その他興味の無いつまらない科目もあったが、ようやく学びたい事にたどり着いた感じだった。そこでやっと親友と呼べる友人もできた。大本山での修行は辛かったが今ではこの経験が一生の宝となっている。

一度乗ったルールは最短で進まねば余分なお金がかかってしまう。学ぶということは現実に莫大な費用が伴うものだ。途中で寄り道など出来る余裕などない。まして下車など絶対に出来ない。

あれやこれやと10年経ち平成元年に住職に任命され自分では一人前となって帰って来たつもりでいたが、世間から見ればただのひよっ子、25歳の若僧で何の信用もなく、自分の無力さに絶望もした。その時、大本山時代のお経の師匠がこんなことを言っていたのを思い出した。「50歳ぐらいになってようやく良い声が出るようになる、その時が半人前だ。」この言葉を胸に秘め何でもコツコツやるしかないなと思いながら、今50歳をとうに越え、どうなんだろうかと自問する。簡単には一人前になれるものだ。

どんな職業だろうと一人前になることはとても難しい。島っ子達よ、将来何になるのかねらいを定めてまずは精一杯半人前をめざせ！

## 『山歩き』

教育委員 藤田 月

今年（2016年）も早いもので、あと一か月で終わろうとしています。今年は、よく山登りとまではいかないが、いくつかの山に行きました。

5月に3男が神津島にいるので天上山に登りました。神津に行ったら天上山に登らないとだめだと言われ、集落からも近く、たいしたことはないだろうと思っていたのだが、これが結構きつくあまく見ていました。島の南東から登り、南西に下りてきましたが逆のルートの方が下りる時の景色が良かったように思います。



8月は富士山、バスで5合目まで行き霧がすごく近くを散策する程度で山に行った感覚ではありませんでした。9月にはいつか行こう行こうと思っていた高尾山に登り、平日にも関わらず頂上付近はたくさんの人でした。日本で一番勾配のあるケーブルカーで途中まで行き、都心は勿論、富士山、江の島の方まで見渡せる絶景のところもありました。走って登るランナーにも何人か会いました。

11月には茨城県の筑波山に行き、筑波山は男体山と女体山があり、女体山の方に登り、頂上で何と大島の知っている人に会いこんな偶然があるのかとお互いビックリしてしまいました。

どの山も手頃の山とあって外国人や仕事を引退されたご夫婦の方が多かったように思います。

大島でも大島空港の隣の愛宕山、差木地のシンボルでもあります岳の平にも12年振りに登りました。岳の平は旧差木地小学校の財産であり毎年、PTA活動で頂上付近の草払いをしていました。

頂上前の最後の50メートルぐらいがきつい勾配なのに皆さん若かったんだね草払い機と燃料を担いで一気に登っていきました。

山で弁当を食べるのも又、格別の味がして楽しみのひとつでもあります。2017年も手頃な山を見つけて、山歩きを楽しみたいと思っています。



## 『季節』

教育委員 岡山 日出子

先日、『立冬』を迎えたと気象予報士が話していました。日本には四季があり、それぞれに『立春』、『立夏』、・・・等々時季を表す言葉が暦にでています。実際に体感するそれとは多少ずれているな、と感じることもありますが、そういう言葉を見聞きすると改めて『季節』意識します。

同じように「そろそろ〇〇が美味しい」とか「今が旬の〇〇!」と聞くと、ああもうそんな時季なんだ、と認識させられることがあります。これは地方や嗜好によるところもあるでしょうか、一番身近かもしれません。

私自身も、庭に生える果物や食卓の料理、運動会や祭りなどの行事でなんとなく感じていたような気がします。

しかし、私たちやその上の世代の方々には通じるこういう季節の話は、若い人たちにも理解してもらえるのでしょうか。ハロウィンやクリスマスで盛り上がっていても、コンビニの食事や一年中Tシャツ姿の息子たちを見ていると不安を覚えてしまいます。

今年のように夏の終わりから長雨が続き、秋を感じる間もなく『立冬』を告げられるような異常気象も珍しくなくなりました。四季の境目はどんどんあいまいになってしまうかもしれませんが、暦も旬の食べ物も知っていて初めて『季節』に繋がっていくのだと思います。

華やかさを増す行事とともに日本の『季節』を大事にしていきたいと改めて感じました。

**つばき小学校**「関東甲信越へき地教育研究大会 東京大会 大島分科会」発表を終えて

大島町立つばき小学校長 立木 功

本校では、今、児童一人一人につけておくべき力として、「基礎基本の定着」を土台におきつつ、「自ら考える力、主体的に考える力」が必要であると捉えています。そこで、校内の研究テーマに「自ら考える児童の育成 ～言語活動の充実を通して～」を掲げ、授業実践等を通して取り組んでいるところです。その研究の成果の一端を、昨年（平成28年）の11月25日に、標記の大会にて発表する機会をいただきました。御来賓の皆様をはじめ、多くの先生方に御来校いただき、御意見、御指導をいただきましたこと大変感謝しております。本研究を通して、児童に確かな変容が見られてきたことは、教職員の喜びと自信につながってきています。これからも、教職員一同、なお一層の研修と実践を積み重ねて参りたいと思っております。以下、研究内容のキーワードについて、簡単に紹介させていただきます。

**【能動的に学ぼうとする授業づくり】**

学習過程の中に、「自分の考えをもつ場」→「考えを多面的に問い直す場」→「自分の考えを再構成する場」等を明確に位置付け、授業を進めていくことで、自ら考える児童の育成につながっていく…。

**さくら小学校**

平成 28 年度東京都教育委員会 言語能力向上拠点校 研究発表会

「児童が主体的な学習力を身に付けるための指導法の工夫」  
～「言葉による発信力を高める言語わざ」の活用を通して～



《 “学び合う子どもたちの姿” があふれる さくら小学校へ 》

平成 29 年 2 月 10 日（金） 受付開始 午後 1 時 10 分

**つつじ小学校**

つつじ小学校では、今年度も「毎日更新！」を目標にホームページ・ブログの充実に取り組んでいます。ブログコーナーでは、子どもたちの生き生きとした活動をみなさんに伝えられるように、写真選びや文章等を工夫しています。学習リンクもどんどん更新して充実し、日々の学習で子どもたちが活用しています！毎日更新のつつじブログをぜひお楽しみください！



つつじ小ホームページ



毎日更新！つつじブログ

つつじ小学校ホームページ <http://town.oshima.tokyo.jp/~tsutsuji/>  
毎日更新！つつじブログ <http://tublog.exblog.jp/>

一中

第一中学校は地域の行事へも意欲的に取り組んでいます。大島の中学生として地域と積極的にかかわることで、大島への理解を深めて誇りをもつこと。それが自己肯定感、自己有用感につながると考えているからです。

11月に行われた福祉まつりもその一つでした。本校生徒会役員を中心に参加し、たくさんの方々との交流を深めました。中学生が直接地域に溶け込んでその一員としての自覚を高める事は地域に根差した一中の教育活動の重要な要素でもあります。写真はその時の活動の一場面です。参加した生徒の感想とともにご紹介します。

「着ぐるみの中はすごく暑かったですが、小さい子の笑顔を見るとこちらも楽しくなりました。この日はいろいろな方と関わりあえてすごく楽しかったです。

生徒会長 櫻田拓己



二中

二中では3学期、次のような取り組みや行事を予定しています。

<職業体験> (2年生) 1月31日(火)～2月2日(木)の3日間

大島町内の役場や保育園、商店や工房、スーパーマーケット等の事業所で実際の仕事を体験させていただき、お金を頂いてする仕事のたいへんさや責任感を学びます。

<職場見学> (1年生) 1月30日(月)

2学期始めに職業について調べた事を発表しました。今回は実際の職場を見学して職業学習を更に深めます。

<入学説明会> 2月14日(火)

小学6年生の保護者を対象に二中の授業や行事、生活等について説明会を実施します。

<校内作品展> 2月27日(月)～3月5日(日)

美術や技術家庭科で制作した作品を展示します。玄関のパネル画もご覧下さい。

<3年生を送る会> 3月10日(金)

今年の内容はまだ未定ですが、昨年はレクや合唱、劇、キャンドルサービスの他に3年生一人一人が在校生に向けてのメッセージを送りました。

三中

かつての三原山噴火を教訓にして

三原山は現在平静ですが、いつまた噴火するかわかりません。そのために、大島町は10年に一度、大規模な総合防災訓練を行っています。11月21日がちょうど30年目ということで、本校でも総合防災訓練に参加しました。そして、救助訓練の様子も見学しました。ぜひ、かつての出来事を教訓にして、減災と自助共助の精神を培ってもらいたいと願っています。将来の大島を担う生徒たちであるのだから。



# 教育委員会カレンダー 1月～3月

月	日	内 容	場 所
1	7	成人式	大島町開発総合センター
2	4	大島町体育祭野球大会（小学生の部） 予備日 2月5日（日）・11日（土）	差木地地域センターグラウンド
	19	大島町文化祭（芸能大会）	大島町開発総合センター
3	3	大島町文化祭（作品展）（3月3日～5日）	大島町開発総合センター

## 事務局からのお知らせ

学校教育係	社会教育係
<p><b>○連合音楽会</b> 昨年12月6日（火）第一中学校体育館で「第31回大島町小中学校連合音楽会」を開催しました。ご来場ありがとうございました。</p>  <p><b>○連合作品展</b> 1月13日（金）から17日（火）の午前9時から午後4時30分（17日は午後3時）まで、つばき小学校体育館にて「第20回大島町小中学校連合作品展」を開催します。是非ご来場下さい。</p>	<p><b>伊豆大島ゲートボール場改修完了のお知らせ</b> 社会教育では前年度より社会教育施設の改修に取り組んでいます。その一環である伊豆大島ゲートボール場（大島町岡田字新開）の改修が9月に完了いたしました。今まで人工芝1面、クレーコート3面でしたが、今回の改修で4面すべて人工芝コートに改修いたしました。社会教育施設についてのお問い合わせ教育委員会までご連絡ください。 ・電話番号 2-1453</p> 
給食センター係	図書館
<p><b>給食センター係からのお知らせ</b> 現在給食センターでは、食物アレルギーに関して可能な限りの対応を行っております。一昨年の3月に文部科学省から食物アレルギー対応指針の通達があり、その中には「食物アレルギーを有する児童生徒にも、給食を提供する」と明記されております。この通達を受け、昨年より都栄養士協力のもと町独自の学校給食の食物アレルギーマニュアルを作成し、来年度より実施するにあたり、今後食物アレルギーを有する児童生徒の保護者、学校、給食センターにおいて面談の機会を持ち、情報共有等を行います。より安全で美味しい給食が提供出来るよう努めまてまいります。</p> 	<p><b>福祉まつりへの参加</b> 11月5日（土）に社会福祉協議会主催の福祉まつりに移動図書館「ひまわり号」が参加しました。本の貸出と除籍本のバザーを実施いたしました。売上金は新規の本購入費などに充てさせていただきます。また、ひまわり号ではボランティアの募集をしております。内容は本の貸出、ひまわり号の運転手（普通車免許で運転できます）、本の登録作業です。運行日は第1・3・4土曜日に運行しています。興味のある方はひまわり号事務局（大島町図書館）までご連絡ください。 ☎04992-2-2392（月曜休館日）</p> 

### ※啐啄（そったく）とは

鳥の卵が孵化しようとするとき、殻の中で雛鳥が外に出ようとして内からコツコツ殻をたたき音を「啐」といい、母鳥がその孵化の瞬間を悟り、殻の外をコツコツつき破ることを「啄」といいます。この啐と啄の呼吸が合うとうまく殻が割れ、丈夫な雛が誕生しますが、どちらか早すぎても遅すぎても良い雛は生まれません。教育も教える側の先生と教わる側の生徒が、啐啄同時である事が理想であり、依って大島町教育委員会便りを『啐啄』と名づけました。

# 啐啄

平成29年1月1日刊行  
大島町教育委員会だより  
発行・大島町教育委員会  
編集・大島町教育委員会